



PTA広報紙
鹿児島中央

発行
鹿児島中央高等学校PTA
TEL226-1574
発行責任者
PTA会長 永田晋一
印刷
株式会社 印刷



男子 ベスト8

順	年・組	氏名	時間
1	2-7	西田 慎也	2:02 新記録
2	2-5	森山 航平	2:21
3	2-3	笹川 悠	2:32
4	2-3	牧野 周平	2:32
5	2-3	柞木 なぎ	2:32
6	2-8	加藤 一帆	2:40
7	2-4	穴井 快英	2:41
8	2-7	田中 大貴	2:41

女子 ベスト8

順	年・組	氏名	時間
1	1-6	森園 さくら	3:24
2	1-4	和田 詩帆	3:25
3	1-4	岡元 咲樹	3:44
4	2-3	黒田 友香	3:44
5	1-3	古市 莉子	3:46
6	2-7	坂本 望	4:07
7	3-2	寺坂 葉里	4:10
8	3-8	今村 友香	4:10



校長先生も駈ける南薩路
翌日に東京行きを控えていたの
で、少しだけ走ろう!と
思っていたが、景色や風の心地よ
さと生徒たちの頑張っている姿
に触発され、吹上のブリッジ
周辺を3kmとかめまる館から10
km走ってしまった。

途中足が攣りそうになったが、走りながら生徒たち
と話が出来たことや徳重神社で生徒から飴を貰った
こと等、嬉しい思い出が沢山出来た。来年は30km
を完歩したい。(学校長)



南薩路遠行の歴史

- 創立～ 妙円寺詣り(のちに妙円寺遠行)
中央高校から徳重神社までの20km
- 昭和48年～ 桜島一周遠行
道路やその他の交通事情が困難になった
ためコースを桜島に変更
桜島一周38km
早朝4時30分に桜島桟橋に集合する年が
あった
- 平成24年～ 南薩路遠行
桜島の活動が活発化したためコースを南
薩に変更
約30km

永田 PTA 会長完歩!

子どもの学校行事に参加し、多くの生徒とふれあうことで同じ体験
をしてみたかった。体力には自信
があったが、かめまる館までの距
離が思っていた以上に遠く辛かった。
かめまる館や住吉小学校の休憩所
では母の部会の皆さんのわけ隔て
ない子ども達への気遣いが感じら
れ、ほっとしていた生徒や元気を取り
戻していた生徒が印象的だった。
来年も参加できるなら200位以内
が目標だが、母の部会のサポート
をしたいと思う。(PTA会長)



二つのオアシス

母の部会の部長 濱田 いくよ
の母さん達が、遠行の途中二ヶ所の休憩
所で生徒達へのサポートをしました。麦茶
やポカリやレモネードなどの冷たい飲み物
とバナナや手作りのレモンの蜂蜜漬けなど
の食べ物を提供しました。中には、「初め
て麦茶がこんなに美味しいものかと思いま
した。ありがとうございます。」と言っ
てくれる生徒もいて、礼儀正しい中央生にお
母さん達も気持ち良く感じることでした。
あるお母さんは、こうやって母の部会の仕
事に参加することで、家庭では見られない
子供の学校での様子を見ることができてよ
かったと感想を述べてくれました。

第1休憩所 かめまる館

全行程30kmのちょうど中間点にあり、チェックポイントになっています。子どもたちは全員ここに立ち寄り、休憩してから残り半分に向かいます。



- 休憩所で準備された飲食物
- ・麦茶、レモネード
 - ・飴、氷砂糖
 - ・かつお梅
 - ・チョコレート
 - ・バナナ
 - ・レモンの蜂蜜漬け



子ども達のサポートのため肌寒い早朝6時半に集合し、母の部会の30名とPTA役員も2班に分かれて休憩所の運営活動を行いました。日置市特産直販施設のかめまる館では永吉川の橋を渡ると母の部会の建てた白いテントの下では冷たい飲み物や補助食が疲れた子ども達を迎えてくれます。バナナや梅干、お菓子と共に目を引くのはレモンのハチミツ漬けとレモネード。昼間の残暑の厳しさのためか、特に水分補給に人気があるようでした。

子どもたちの完走を支える
母の部会の「おもてなし」

沿道の応援隊の保護者のつぶやき

- ・かねては静かな南薩路が、中央高校生のお陰で活気を貰ったみたい
- ・若いっていいなあ。私も走れるものなら30km走ってみたい
- ・一生懸命走る姿や疲れているはすなのに笑顔に向けてくれるサービス精神旺盛の生徒もいて感動した

母の部会実施後のアンケートより

- ・お手伝いの担当を決める時とても協力的だった
- ・飲食物の準備も価格調査等を事前にして決められた予算内できっちり買い物をした
- ・レモンの蜂蜜漬けは、材料を持ち帰り、自宅で作ってきて下さっている
- ・我が子だけでなく、頑張っている子や集団で来ない子供への声掛けを心掛けた
- ・また来年も係をしたい

それぞれの休憩所では、どの子ども達も礼儀正しく、中央生のよさを発見できます。また、単独で歩いてくる子どもにも一人一人声を掛ける母の部会の方々、麦茶を改めておいしいと感じた素直な感想を述べる子どもなど、年頃の子どもや他のお母様方と素直に親睦が図れたりして、満足の1日だったようです。クラスでの母の部会の立候補者が多いのはこの為なのかと分かります。毎年恒例行事になってますが、毎年実施するには、母の部会の綿密な事前準備と当日の自主的なトイレ掃除や小学校でのグラウンド整備などの活動が不可欠です。ここよく休憩所を提供してくださるかめまる館や住吉小学校のご理解、全教職員の横断歩道や途中危険箇所の見守りがあるからこそと改めて感じました。

全ての方々に感謝



小学生たちが毎年一緒に遊ぶのを楽しみにしていますよと、住吉小学校の先生方から。いえいえ、楽しそうにサッカーやバレーをして遊んでもらっているのは高校生の方。長距離を走ったり歩いたりしてきたのに元気です。心がほっこりする休憩所です。

住吉小学校の校長先生は中央高校生のために、応援横断幕を作って下さり、毎年掲げて下さっています。ありがとうございます。

完璧！母の部会

準備や休憩所での飲食物の提供だけでなく、後片付けもバッチリ！。トイレの清掃に休憩所周辺の清掃、住吉小学校ではあの広いグラウンドに、はき目まで付ける完璧な掃き掃除。頭が下がります。



第2休憩所 日置市立住吉小学校

最後の急坂に挑む直前、山裾に建つ小さな小学校では、つかの間の休憩を楽しむ子や足を痛めて休んでいる子どもたちの姿が。お菓子やレモンの蜂蜜漬けがおいしそうでした。



ナイス、援護！野球部

トラックいっぱいに積まれた遠行の道具の荷下ろしを十数人の母たちでしようとしていたところ、野球部のイケメンたちが手伝いに来てくれてとても助かりました、と母の部会員。

◀コースの準備をする体育科の先生方

第53回 体育祭

三華繚乱

今、この瞬間を全力で挑め

緑組(2年)優勝 応援の部優勝は青組(3年)



中央今昔～体育祭雑感～

英語科・廣瀬裕二(15期)

第53回鹿児島中央高校体育祭の閉会式。「応援の部準優勝、赤組。」発表直後に歓声を上げる赤組応援団や1年生の姿を見ながら、数十年前に同じグラウンドに立っていた頃を思い出していた。1年生が応援の部で上級生に勝つとは・・・。自分の高校時代より遙かに立派な姿に、後輩達を頼もしく思った体育祭であった。昨年母校に赴任し、数十年前振りに鹿児島中央高校の体育祭に参加した。「これは廣瀬先生の頃からの伝統ですか。」と多くの先生方から何度か質問されたが、答えは「ノー」であった。学校を取り巻く社会環境の変化や時代の流れなどによって体育祭も変化していくことは当然のことである。では、数十年前経った今でも変わらないものは何であろうか。それは、狭いグラウンド、赤・緑・青の鉢巻き、そして体育祭に対する生徒のエネルギーやパワー、すなわち「中央魂」であろう。

ところで、「中央魂」とは何であろうか。高校時代の自分自身がそうであったように、この言葉を本当に理解し、実感している生徒は少ないのではないだろうか。失礼な言い方になるかもしれないが、私は中央高校の制服や体育服を着ただけでは中央高校生にはなれないと思っている。中央高校生は、3年間の高校生活を通して「真の中央高校生」となって卒業していくのであり、その時に初めて「中央魂」を身につけたと言えるのではないだろうか。

おじやまします

今回は、新館二階にある図書館を訪問し、専門員(司書)の俣木先生にお伺いしました。

中央生のニーズに応える豊富な蔵書

学習・情報センターとしての役割を担う学校図書館。本校図書館も約三万三千冊の蔵書を有し、生徒たちの主体的な学習に協力できるように努めておられます。

開校以来、自学自習の場(学習室)としての印象が強い本校図書館ですが、情報提供の場としての「書架室」も、充実した蔵書構成で生徒たちのニーズに答えています。リクエストで購入した又吉直樹の『火花』(文藝春秋)や、人気の有川浩・東野圭吾らの文学作品だけではなく、自然科学・社会科学分野の書籍も数多く所蔵し、より深く授業を理解できるような選書を心がけておられます。また、看護倫理など専門性の強い書籍や『白書』など入試対策も万全です。

午後八時まで頑張る受験生

三年生は、平日午後八時まで学習室を利用して自習の場としての利用は勿論ですが、大いに書架室の蔵書も活用し、心豊かに高校時代を過ごしてほしいと思うことです。



部活動の保護者(会長)とキャプテンへのインタビュー

次の質問に答えていただきました。

- ① 保護者会活動をしてよいところ
- ② 保護者会活動の楽しいところややりがいのあるところ
- ③ 保護者から子どもたちへのメッセージ
- ④ キャプテンから後輩に伝えたいこと
- ⑤ キャプテンから顧問の先生や保護者へのメッセージ

サッカー部

保護者 後藤 香弘

- ① 全校生徒の約一割がサッカー部で、試合だけでなく、学校行事でも知り合いが多く、とても心強いです。多くの出会いに感謝。
- ② 班での当番や栄養会を通じて親睦も深まり、とても賑やかなKFC後援会です。ときにはおしゃべりに夢中になりすぎて、ゴールシーンを見逃すことも。体育祭では、親子一緒に昼食をとっています。
- ③ 文武両道と口で言うほど容易くはないでしょうが、目標をもって、悔いがないように、最後までやりきって欲しいです。
- ④ フィジカルは大事!!
- ⑤ 高い目標達成の為、これからもサポートと応援よろしくお願ひします。

野球部

中央野球部 52期母の会

- ① 思春期の子ども達と接する事が出来る。親子の会話が増える。
- ② 勝てたら飲める(父の会) 女子会?が出来る(母の会)
- ③ 甲子園に連れて行ってね♡
- ④ (母の会より顧問の先生へ) 試合の日は朝早くから、平日は夜遅くまでお世話になりありがとうございます。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

男子バドミントン部

キャプテン 杉野 冬哉

- ④ 部活ができる時間は限られていて、二年間はあっという間に過ぎるので、一日も無駄にせずに頑張ってください。
- ⑤ いつもありがとうございます。顧問の先生や保護者の方々の支えがあって部活動に打ち込む事ができています。期待に応えられるように頑張るので、これからもよろしくお願ひします。

書道部

キャプテン 小山 莉穂

- ④ みんなで楽しく、また自分の納得のいく素敵な作品をつくってね。九州大会目指して練習頑張れ!
- ⑤ 後輩たちがたくさん賞に入れるようにこれからもご指導よろしくお願ひします!



美術部

キャプテン 櫻木 葉月

- ④ 美術部は部員全員で協力して活動をするということが少ないけれど、決して一人で描いているわけではないので、友達の仕事を見たりアドバイスをし合ってお互いを高め合ってほしいです。これからも楽しく作品を創り出してください!
- ⑤ この短い期間で多くのことを教えていただきました。絵のことだけでなく、美術部の部員として、協力し合うこと、自分の行動に責任を持つことも学びました。お陰様で去年よりもさらに部員が生き生きと活動していると思います。美術部が描いた看板への感想を保護者の方々からたくさんいただきました。声をかけていただけたのはとても嬉しです。ありがとうございます。先生や保護者の皆様の支えで描いていることを忘れずに日々精進していきたいと思ひます。

顧問の先生、保護者に一言

ESS部部長 湯之前 拓

「人と出会ったおかげで自分とも出会えた」と、僕の尊敬する谷川俊太郎先生がおっしゃっていました。まさに自分にもこの言葉が当てはまると思ひます。

顧問の先生は、私が一年のとき担任の先生だったこともあり、部活動以外のこともアドバイスをくださいました。また、保護者の皆様もお会いできる機会は少ないですが、様々な形で支援をしてくださっており、ありがとうございます。もし皆様とお会いできなければ、今の自分ではなかったと思ひます。まだまだ頼りない部長ですが、これからもご支援とご協力をお願いします。最後にこの場を借りて一年のときから一緒に活動している同級生のみんなに伝えたいことがあります。

今までついてきてくれて本当にありがとうございます。みんなの協力がなければ、僕は何もできません。もう残りも少なくなってきたけど、みんなに支えられてきた分、自分も一生懸命がんばるのでよろしくお願ひします。



県高校生英語ディベート大会 ベスト8 (於 甲南高校10/24~25)



紙面の都合上、一部の部活動しか掲載できませんでしたが。

聞かせしー

大先輩

小正芳史さん (小正醸造(株)代表取締役社長)

本校の第2期生で、同窓会の会長でもあり、県内外の経済界でご活躍中の同氏に、高校生活を豊かに送るヒントなどをお聞きしました。



○高校生活の思い出は?

当時、中央高校は新設校で「勉強に集中しなさい」ということで、初代の柳校長先生から生徒全員に、「3年間は『もぐら』になりなさい」とよく言われました。だから苦しいことばかり思い出されますね。楽しかったことといえば、たまに校庭でソフトボールをしたり、夏に一週間程霧島合宿(勉強)があり修学旅行気分になったこと。それと、当時学校行事だった妙円寺詣りを往復歩いたこと。それくらいかな。

○高校生活の中で、社会人になってから役立っていると思うことは?

やはり「三綱領五条目」ですね。例えば

「積極敢為 自ら運命を開拓せよ」という言葉がありますが、高校を卒業し、大学を経て社会人になってから、ある時「はっ」と気づく時があります。これらの言葉は、まさしく人生訓話です。

○今の若者についてどう思うか?

今の若者は、自分が若者とされていた頃より、すごがんばっていると思います。自分たちはアナログの時代でしたが、今の若い人達は仕事でもITなどを使いこなしていますよね。それに素直だと思えますよ。

未来の日本を担う彼らのために、自分たちが先人の教えを伝え、上手にパトタッチをしていかなければ、つくづく思います。

○今の社会に必要とされる人材とは?

社会環境が激しく変化する中、鹿児島弁でいう「ほっけもん」の精神を持っているほしいと思います。

「自分の人生だから、自分のやりたいことをやる」というような気構えといえますか、挑戦する気持ちですね。高校生というのは人生の基礎の部分で、社会に出れば自分の力が試されるわけです。自分の思っていることがきちんと言えること。一方で、協調することも大事ですけどね。成功する

人というのは、こういったことをきちんとやりきっていますね。

また、人との出会い、「師」と思えるような人との出会いも大切です。できるだけ早い年代に、「気づき」や「出会い」があればいいと思います。人生には三度のいい出会いがあるとされています。出会いがあつて心が変わると、行動も変わります。

○在校生に向けてのメッセージ

二つの言葉を贈ります。

ひとつめは、「今を一所懸命に生きる」です。三年間はあつという間です。一日一日の瞬間を大切に、「今のこの瞬間」がこれからの自分に役立つと思ひながら過ごしてほしい。

もうひとつは、「継続は力なり」です。

高校時代は悩みや苦しみがあるでしょうが、ひたすら積み上げをしていけば、20代、30代、40代と年を重ねるごとに、いつかはそれが力となり、花が咲きますよ。

**本気でやれば何でも出来る。
頑張れ! 中央高校生。**

PTA研修視察



7月1日、保護者37名、引率の先生方3名で新幹線とバスを利用して、九州大学伊都キャンパスを視察しました。大学の紹介ビデオを見た後、学内を散策したり、売店で大学グッズを購入したり、最後に広大な敷地をバスで一周し、充実した設備とスケールの大きさに圧倒されつつ、大学を後にしました。

午後からは、ホテルのランチビュッフェを堪能し、九州国立博物館の見学や太宰府天満宮の参拝等、充実した研修視察になりました。

大学入試学習会

10月15日、本校体育館にて2年生とその保護者を対象に大学入試学習会が行われました。高校生活を振り返りつつある大学入試について理解を深め、今後の対策等について学習する初の機会です。143名の保護者参加のもと、緊張した雰囲気の中始まりました。



《3年0学期》すでに戦いは始まっている。

2015年センター試験概況や国公立・学部系志望状況、入試問題分析。また、2016年度の入試変更点など、資料の図やグラフをもとに先生方の分かりやすい解説が続きました。
そして何といても心に響いたのは、中央高校2年の置かれている厳しい立場です。初めて聞いた我が子たちの現実に、「中央高校に入ったから何とか大丈夫だろう」
「まだ2年生だし、受験について真剣になるのは3年生から」といった考えも消え、焦りを感じずにはいられなかった保護者が多く見受けられました。

第38回 全国選抜高校テニス大会 九州地区大会 Bブロック優勝

平成27年11月13日(金)～15日(日)に宮崎県で行われ、本校女子テニス部が団体戦で見事優勝しました。

- 予選リーグ
- 5-0 熊本第二高校(熊本県)
- 5-0 筑紫女学園(福岡県)
- 5-0 鹿島高校(佐賀県)
- 決勝戦
- 3-2 大村高校(長崎県)

